



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 木幡 智清
幹事 星 行夫
SAA 高萩 勝利
会報小委員長 今泉 敏徳

○例会日 毎週水曜日 (12:30 ~ 13:30) ○事務局 TEL/FAX (0246) 56 - 3473
○例会場 ホテルミドリ E-mail:info@iwakinakoso-rc.jp

第 2786 回 例会 令和元年 8 月 28 日 (水・曇り)

2019 - 20 年国際ロータリーのテーマ

ロータリーは世界をつなぐ

会員卓話 木村 博昌 会員

ロータリーソング 奉仕の理想
- 今月は会員増強・
新クラブ結成促進月間です -
4 つのテスト
影山 晴康 会員



◎会長報告 - 木幡智清会長

皆さん、こんにちは。秋雨前線の影響により朝晩過ごしやすくなっています。しかし、北九州方面では大雨になっている所があり、気象庁の予報では9月に入ると又暑い日が続くことになっています。熱中症には気を付けて下さい。先日8月23日(金)に常磐共同火力(株)さんのサマーフェスティバルに行ってきました。大変盛況で小澤所長はじめ関係者の皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。今日の例会が8月最後の例会ですが、来月になりますとガバナー公式訪問や観月家族例会がありますので皆様のご協力を宜しくお願い致します。

◎幹事報告 - 星 行夫幹事

- ・いわき平東ロータリークラブより9月のプログラム、東京調布むらさきロータリークラブから寄贈された草刈機の現状報告の願いが来ています。
- ・国際ロータリーよりガバナーエレクト事務所開設のご案内が届いています。
- ・いわき平ロータリークラブといわき平中央ロータリークラブより9月のプログラムが届いています。
- ・米山梅吉記念館から賛助会員入会のお願い、ロータリーよりロータリアン誌が届いています。

- ・先日行われました第2回の理事会の議事録も回覧中です。
- ・地区大会の出席は現在15名です。まだ出欠を出していない方は8月30日まで宜しくお願いします。
- ・観月会は9月29日(日)18時30分から会費は会員5,000円、ご家族3,000円となっています。バスは16時にミドリ発になっています。
- ・いわき分区合同ガバナー歓迎会が9月26日(木)にホテル美里で18時30分より行われます。
- ・2019-20年度の当クラブの年次計画書並びに年次報告書と手帳が皆さんのボックスに入っていると思います。

◎各委員会報告

◇出席委員会 - 佐藤政司小委員長

本日の出席状況は下記の通りです。出席率向上にご協力を宜しくお願いします。

◇スマイルボックス委員会 - 富岡幸廣副委員長

・処暑の節となりましたが各自体の健康保全には充分気をつけましょう。清水、富岡、高萩、佐藤(政)、吉野、富澤、鈴村、渡邊(貴)、木村(博)、高橋、影山、渡邊公平、パストガバナー、藤田、蛭田、大平、久野、今泉、鈴木(雅)各会員及び木幡会長、越田和会長エレクト、星幹事、細田副幹事

・ゴルフ愛好会で優勝してしまいました。

荒川(義)会員

・本日早退ごめんなさい。

斉藤、林各委員

・前回休んでごめんなさい。

木村(義)会員

◎会員卓話 - 木村博昌会員



皆さん、こんにちは。私、瀬戸碎石の木村と申します。先月いわき勿来ロータリークラブへ入会させていただきました。初めてお会いする方もいらっしゃると思います

ですので再度ご挨拶させていただきます。今回卓話のお話を早速いただきまして何を話したら良いか迷いましたが、会社の紹介と以前私の父が勿来ロータリークラブに在籍しており皆様と懇意にさせていただいたということで改めて父の代わりに御礼申し上げます。それでは会社案内をさせていただきます。

当社、瀬戸碎石株式会社は東北の南端に位置する福島県いわき市のさらに南部になります勿来地区の瀬戸町において碎石業を営んでおります。昭和36年操業ですので今年で58年目、令和3年には60周年を迎えることとなります。その間、日本経済の高度成長期からバブルの崩壊、さらには緊縮財政時代、平成23年の東日本大震災からの復興関連工事等一貫して地域の建設産業に不可欠な基礎資材であります各種碎石類を生産して供給してまいりました。石材部門では、「みだれ髪」の歌に歌われた塩屋崎の美空ひばり記念碑は当社の作品であります。また、公共工事等の道路や生コンへ入れたり、アスファルトの原材料にも使われております。その他、埋立て盛土、鮫川堤防嵩上げ盛土を供給させていただきました。最近は大雨が降ることが多く河川の改修工事も行われています。いわき-石川線の改良工事(湯本から石川)へ抜ける工事へ材料を供給している状況です。また、復興工事とは別ですが小名浜道路へも碎石を供給させていただいています。碎石と言っても目に見えない物で建物を建てるのに石が使われていますが、表に見えない部分で目立ちにくい資材です。どこを掘っても石は出てくるので華やかな仕事ではないですが、目に見えない所で皆様方のお役に

立っているのかなと思っています。時代は21世紀に入りまして20年が経過しようとしています。近年の日本社会は数々の難題に直面しており、碎石業の置かれた状態も例外ではありません。厳しい変革の時代を迎えていると言えます。当社といたしましても、この変化に適応できる柔軟性を持ちながら、一方で地域経済の一員として皆様の信頼に答えられる誠意を持って、社員一同力を合わせてこの時代の荒波を乗り越えて行きたいと思えます。それから碎石業が抱える問題についてお話をしたいと思えます。最近の出荷量ですが平成18年度から平成22年度にかけて公共工事、建設工事が減りました。昭和の頃の半分以下に落ちました。その後、平成23年に震災があり震災復興工事が大量にあって平成26年度には平成22年の約3倍になりました。大変忙しく資材の供給に努めました。ただ工事が終われば出荷が無くなり平成30年度は3分の1に減りました。今年の出荷量もそれを割り込むだろうと思われまます。公共工事悪玉論もありましたが、建設、土木業界等も元気にならないと地域の活性化は難しいと私は思います。また、碎石する場所もどこで良いわけではなく、今の碎石屋が拡張しているのが状況です。開発にかかわる費用と地域の住民の方のご理解を得ながらやっていくんですが、住宅地が近くにあると拡張は厳しくなります。山を崩す時はダイナマイトで崩すのでその音も地震が来たのかと思う位の時もあります。資源もいつまでもある訳はなく枯渇する場合もございます。初期投資で山を買うことになるのでこれから碎石業をやるかという難しいと思えます。碎石終了後の後地処理の問題が碎石業にとって大きな問題として申し掛かっけてきます。災害が起きないように緑化したり、水をためる池を作ったりすると莫大な費用になります。役所の行政指導のもと最終計画までを提出して役所の認可がおります。碎石業の出荷量が減ってきたのはリサイクルの廃材やコンクリート、アスファルトの代替材料をこの10年位で使っていることも要因です。廃コンクリートや廃アスファルトを出さずに安価に材料として使えるので行政もリサイクルに積極的に取り組んでいます。

出席状況	正会員数	50名	カード出席	3名
	本日出席会員数	32名	本日の修正出席率	72.92%